

「東博イマーシブシアター 新 JAPONISM

縄文から浮世絵そしてアニメへ」を見て

2025-6-8

野口幹夫

上野の東京博物館は、今大河ドラマべらぼうの人気に便乗して葛屋重三郎浮世絵展を開いている。それと関係したテーマだが、別の企画として「イマーシブシアター 新 JAPONISM」をやっている。



葛重と浮世絵展は、大河ドラマを見ているので十分だとおもって省略し、イマーシブシアターと聞きなれない映像展でテーマが「縄文からアニメ」で、それに私の興味が引かれたので見てきた。関西の方々には縁遠いと思うので、ご紹介したい。

まず初めに「イマーシブシアター」とあるが、あまりなじみのない言葉だと思うが、調べてみると突入型という意味で、最近はやりのゴーグル眼鏡をかけて立体映像の世界に突入するのと似ていて、ゴーグルは付けないまま、会場の暗闇にはいると、正面に天井まで届く 7 m の巨大スクリーンがあり、周りにも張り巡らした横長のスクリーンに迎えられ、その世界に没入させられるという体験型の劇場だ。今大阪万博でもこの種のものが多いので、一種の流行だ。



その劇場でみせられる内容だが、まずいきなり縄文時代の遮光器土偶の巨大像がのしかかってくる。つがる地方で発見された女性シャーマンの像である。

続いてはにわ像が続き、戦国武士の甲冑も出てくる。この時代までは絵画は紹介されない。

確かに縄文・弥生時代、絵画は洞窟の壁画として典型的なものはない。あるのは縄文土器に描かれた模様としての人物像だが、この中では紹介されなかった。

次に「」が出る。確かに能とその主役能面は日本文化の本流の上にある。



そして次にテーマに一番沿った映像として「信貴山縁起絵巻」が出てくる。これは、1150 年（久安 6 年）頃、平安時代後期に制作された日本最古の絵画資料だ。

平安時代中期に活躍した高僧「命蓮」（みょうれん）にまつわる、摩訶不思議な説話が描かれている。命蓮が神通力を使って、山崎長者のもとに鉢を飛ばし、その鉢に倉が乗り、倉ごと米俵を**信貴山**にいる命蓮の所まで飛ばして運んだという奇跡譚だ。

大勢の見物衆の驚きの姿表情が生き生きと描かれている。



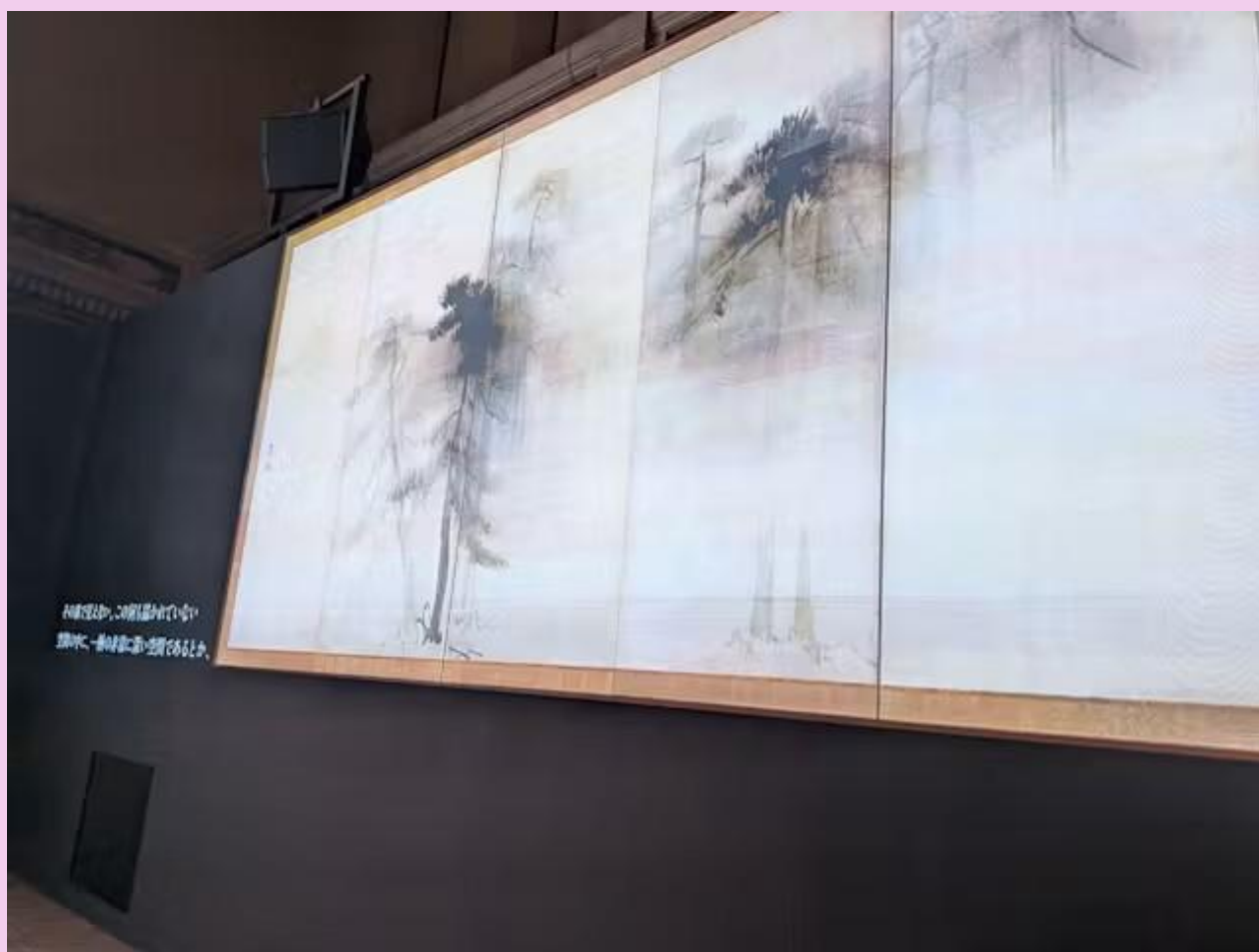
続いて紹介されるのがご存じ高山寺伝来の鳥獣戯画絵巻だ。



「日本最古の漫画」とも称される。

専門家による分析では、平安時代末期から鎌倉時代初期の幅のある年代に複数の作者によって描かれたものが、高山寺で鳥獣人物戯画として集成したものとされる。しかし我々素人目には一人の作家によるまとまった滑稽絵画として楽しめ、これが現代の日本のアニメの先祖だといぜんより思っていたので、信貴山縁起絵巻とともにここに登場するのは当然だ。

時代は下がって安土桃山時代の作品長谷川等伯の松林屏風絵がでる。



この絵の特徴としての空白の多さを指摘していた。確かにうすボケた松の姿が屏風の広い空間に浮かんでこそこの屏風のすばらしさがある。

続いて江戸時代の洛中洛外屏風そして浮世絵と続く。



続いて江戸中期尾形光琳の風神雷神屏風絵が出る。





そして現代のアニメへと続く。鉄腕アトムが活躍し、未来少年コナンやポケモンの現代日本の世界だ。

ここで「アニメ」といえば漫画の映画と短絡して理解しているが、実は世界語となっている

「アニメ」は日本のアニメのことだけをさすようになったそうで、ここでは少し掘り下げて吟味することを求められる

元のラテン語はアニマ、ギリシャ語のプシケ（魂）のローマ語翻訳がアニマであって、魂とか「生」の根源を表す深い言葉だ。アニマとアニムスが男女対の言葉だ。

「アニマ／アニムス」とはまるで恋人のように、良い意味でも悪い意味でも「わたし」に絶大な影響を与える「こころ」の姿だ。自分ではどうにもできないくらい強烈な気分や情緒を伝えてくる「アニマ」、同じく自分自身でもコントロールできないほど絶対的な意見や主義主張を伝えてくる「アニムス」。

そこから派生したアニメーションは、静止画を連続して動かし生きた映像とする技術をさすが、日本では「アニメ」と略称される。そして日本国外では「アニメ」とは日本の商業アニメーションのことのみに指すようになっている。

ここまで世界に羽ばたいた唯一の文芸「アニメ」の根源的由来を探ろうとしているのがこの新 JAPONIZUM だと理解できた。

しかしそれにはこのイマーシブシアター映像は人を驚かせるだけで、筋書きの説明は全くない。素材を並べて後は「皆さん自分で考えなさい」といっているようなものだ。

その挑戦に応えたい。まず始めに登場した縄文土偶から 勝手ななぞ解きを始めたい。

ヒントは紀元前の同じ時代につくられた縄文土偶とギリシャ彫刻ミロのビーナスと比較することだ。縄文土偶も女性像でおそらく冬至の太陽に再生復帰を祈るシャーマンであろうが、その差をどういえばいいのか。

「徹底した写実美 対 徹底した特徴の抽出美」と表現すればいいかもしれない。



続いて 16 世紀の等伯の松林図とダ・ヴィンチの「モナ・リザ」を比較してみると、写実美と、抽出美は同じだが、さらに西欧の思想に「自然に空白はない」と日本の「空の中にこそ特徴の抽出美は映える」。という「空白」の拒否と「空くう」の尊重の差が見て取れる。

この「徹底した特徴の抽出美と空間の美」は漫画の元祖鳥獣戯画や信貴山縁起絵巻 さらに浮世絵と引継がれた。



「徹底した写実美 対 徹底した特徴の抽出美」に優劣はない。それぞれに人を魅了してきたことは確かである。

今を席卷する日本のアニメが数千年の日本列島の民族の伝統を背負って活躍しているのだとこのイマーシブシアターは語っていた。